三

源註拾遺　夕顔

一[illegible]

○八雲集　徒倚（ヨロホシ）　日本記

一[illegible]

孟　綱纒（クメホ）　日本紀　選（カメナ）　延喜式

○八雲集と八字書[illegible]

細[illegible]八頌也　頌愚入[illegible]

[illegible]

桑原文庫
桑原蔵書
開雅文庫
文曜文庫
文庫蔵書

まき波をさしていふ浦にてなみ
石等よ本文に二句とも續きて對せる詞也
そ?つまりも一句と斤けるよ對せる
これは雁ふよするは對せる何ごとも
頭し終りもつけてもこ?
ましは斤帆を船ともいふ
帆よ?わかしはかりかはれはそのうちに
るちよのそこの伺也神楽歌よ 退風よ帆よ?く 退
出ましては神の因也といふのは
り?ようれとも?れし
此り?わる橋の種々?れは?
きあてもらつ?そ?二首のひ出ると?

一 ひかりはもち?は對せる何か是よりなるそ?
はきじろひのうす
一 ○大集和名云說文云艫 十礼及楊氏漢語抄云手相艫豆木之良比
以角觸物也 艫は字をつくしらんとも今は
衝突のとれ字のよしめるなせは史記項羽傳よの?
胸の字を用離騷よは目成とうけ?
一 [illegible]めいのもけの人の家よ[illegible]ける
○[illegible]集[illegible]の事要略よ楊名目あり
女と目との楊あれとも楊名は[illegible]
[illegible]楊名[illegible]合よ[illegible]
とし楊の字新儀式 雜集 源氏物語
○楊名女[illegible]と思守[illegible]遠[illegible]

作之家紀のちもうし安之此宗乃ありしちうとも見え　菅原雅朝ハ作
なし　丹波忠守朝臣
一　いかなるもの仲継にても定まる所に大名又は宿
揚名女ハ前後もなくしかりあて諸大名の日人又用持る
もとより和子名名のことありてこれ女めのことを思ひ
とはでそこそもわの権変のこし縁をかけてまかせ
一　治定し給ふ事ハ
○公家之家は御息所ハ此なるいふ意を申せ給ふ方
ほんとをなかるまでも申すてあるべき文字也　治定し此所
りそめにて御事と申ひ給へるなるのさう
一　あさけ法師さきはつ

一　○公家方家の分引かれそし　弥二代家継にあり
翔鳥のちなるを乗せて　おきけ放深ま見出しても
又朝に定てを重ねてもとくことちもありて
一　おもうひとなれかしよと　定調御年月
○公家網乃字ゟも見えてもり浮網乃字にあら多物語
かとおもひ見ゆべきや
一　おなかのなるを　細　かてあるこそ
○公家大殿のかなやみつくてつまりふたつしまれる
一　かげの女ともに　おつけハあひしかるべし
桜紙より此筆にてしかれり
○公家ゑひし沼ハ性のちあるを　弁付もとうけそる
いうのを紙より此色申長し六振よ

一 いくよはねてけかれし おりとしもきもかれと
箕不重生男重生女 長恨歌
○からは楽天より長恨歌の詩なり
一 三かどはりしきとしらるなりけり
○から楽引前の分方萬ヶ寸月十六つよ 長風にかし室にはわらす 西橋にまへ中風には
一 太道の意ことに 箕ハことさとし八十歳女をとらしめかりあことに
女嬬 ことしらつらし
師 ことし八人をとしなるに 岩ことして
○から楽もひらるることに自らは流を覚知の流より
来るま京にとらしけて自ら問し 今まくり 後捨まて
ともひことりし女の君をうた 捨まこまし 菩薩

をとや地獄にきとてひ死にとそ地ハ云ふうとうかれし
と 女の名にて中にされるところ車わ
まもなきまとやみしことしらす
一 うしうその車のねへしもの結ひこより
○から楽天もしとを首むを乃ま宮さ子乃り
一 木ひまくれて今の物んしておとしおかしはへくる
往信よおひましかくしりつへく
○から楽所往ちうまたれ生けたひとくとおひふかゑ
まして ちくれ肉しみてのうり
一 書の紀月にけふもおめるいそ結りれくとつふて
○から楽天冬ホまて寛する荷 板局そのかもる也の神は寛
一 つりめひまも 西東作採橋 和名 田宅 日本紀

○万葉集にも[illegible]本[illegible]日本紀に国家を[illegible]
一 [illegible]道とこそ[illegible]世[illegible]紀[illegible]
[illegible]案上に[illegible]
[illegible]世も[illegible]
[illegible]

一 ゆき[illegible]先[illegible]
○今案[illegible]八万葉第十に言痛くも事痛くも[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]

一 [illegible]
一 [illegible] ○今案不意（ユクリナク） 日本紀
一 [illegible]明ゆく[illegible]

一 なき中川
○万葉物に[illegible]表の[illegible]
○今案水の源[illegible]奥中河とある[illegible] 日本紀
[illegible]八万葉第十に有て泉吉祭我河波[illegible] 是日本紀
廿八云男依等与近江軍戦息長横河破之 延喜式第
廿一諸陵式云息長墓 舒明天皇之祖母名曰広姫 在近江国坂田郡 [illegible]
[illegible]近江坂田郡にある息長河なり
万葉に嘯我と[illegible]中にある[illegible]
[illegible]水[illegible]息の[illegible]
一 [illegible]延喜式[illegible]近江坂横
川瀬の横川と息長[illegible]息長川[illegible]
一 [illegible] 盂泉 日本紀

[illegible]

一 [illegible]

○[illegible]

一 [illegible]

血[illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

○[illegible]

[illegible]

月十一

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

○[illegible]

[illegible]

[illegible]

一出雲国造[illegible]

○案喩コシラフ日本紀

一[illegible]

一[illegible]

○案日本紀云大捨燃燈ヤキステ・ニアヤシ・トモス

○案[illegible]

一[illegible]

○案万葉廿九挽歌[illegible]

[illegible]

孟放將[illegible]

○案[illegible]

日本紀[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一川北水出[illegible]

懼然怨乃下泊瀬中流面三諸岳漱水而盟曰云云

○今案敏達紀云於是綾糟等

一○[illegible]

一○[illegible]

一○[illegible]

津谷郡平安阿波加[illegible]

一○[illegible]

一○[illegible]

一○[illegible]

一○[illegible]

一○[illegible]

新撰の菟玖波よらくていよく定録の用意有しつる哉
おゆるる出かみもいさとも信て新撰のさもしつえハ
くらいかての叶ふれさ徳あり
一 新玉侍ゟ
○かの集中ハえへる洞之万葉中十五よあかさなり
てとよ乾もあたもしてや
一 に十九日　細いよしまても訓よ侍ゟ
○かの集捨遺よ夜京輔（スケミ）哥 仁平九日を言ふ侵都の儀
詞もあるを忠意御るよ歌けるいよく後十よ御
しもとも之のあゆりとやる絶とかるへけ行ろしし
をちあ西のちをきそよさかし一餘のよをとかん所よ
出るさと見所もいかる刹よハよ知をさ日廿八日万ゟ作意詩

一 とも用ひてるのときに任也をとしるハ人かしく同し
一 蟬のすもきそくしてけり――
○かの集後撰意はなつかしよかけれとも とて
いまかしらもかしりてもかるるしてなりて
　　平かるのむをあ
かくもす拵よかくる平録此かくと見郵いようと
　　源 臣城
らと世ろうつとみと平録のさ秋の御つめもりく
　　為家
一 あるへきとのさまかん
○かの集かくら上一所もあれともれて出家所とて之
河海よよ家寺大二日新続古今集北条北向きたり門意か

[illegible]

一 [illegible] 拾[illegible]

一 [illegible]

○[illegible]集[illegible]家拾集[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

○[illegible]皇極紀云以米送飯

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

○[illegible]集[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible] 思遣 [illegible]

[illegible] 遺問遺精遺懐遺憤 [illegible]

一 さいはてのこの盃去何比 ○万葉 [illegible] 胸臆 [illegible]

一 人〳〵かいつれとも [illegible]

○万葉 [illegible] 羅 梵語 [illegible] 八海 [illegible] 八万 [illegible]

[illegible]

一 [illegible] 何 頰面様労亮 日本紀

○万葉 [illegible] 日本紀 [illegible]

一 [illegible] ○万葉 [illegible] 有 [illegible] 十年

[illegible]

一 [illegible] 賢良 万二 情進 日 情出 万十六

○万葉 [illegible]

一 [illegible]

万葉 [illegible] 万十二 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible] ○万葉 [illegible]

一 [illegible] 後撰 [illegible]

一 [illegible] 後撰 [illegible]

晴嶮 [illegible] 人の家 [illegible]

しかしてことゝ如もつるかるよ花に笛ゆそゆくへこ

一 言井にしらくこらさ花のかたちを見るにさらに月の夜

一 名もなきの木まで花ともいふうちに月のかりとも

一 あかきうち八重よ○仁安朗詠野草芳菲紅錦地

おんもとより山桜花ともいふ川名のしら句ハことをとかれ

一 松くらの松の花をと海れ行てかくよ花のかしとかれ

細山檜戸をまれ行のよ句法○仁安家の秀八方望

定引の宿檜戸を明けて更に御人をとられかるとも

法あるとまり入中御より錦の句明星てと云ことをさうとも

まれなりあけてさらハつまつ句花ととあり維と御れ

さ云法の花を宿のなりしかれとしかせとれて我

彼

続きそうつまあそされをも待鐘の句ハ秋方とされ

ゆりうそあり待よりてさらてと彼句法とう顛倒

せりて孟津よ定家のなれ句をまいへ花の文とも

くれとありて晴作の法ハ作る人法れかくよの将きと

とハ十一の巻十一ヨ

奥山の手まり杉戸を押しまさまさせ濱の音

奥山のまま杉戸をと言を姓ハまた朝のよりもれ

同下紀

宗家ハ奥山よりあかりとかれハ桧の戸の戸とする白木の如くもや鬼荒くしきまの中紀にしらず杉さすとなすや宗家ハ彼うまのうつとまなん宗くの本之とい一り

とゝして我所のあまりよへ来てかれ

あまりをかくつまゝされと閑

叶ひて後の花のかれ和歌

三條右大臣

おほ檜下

さ入ゆうし花のかりうてけされ花をれ枝守子日平れ

しくらくと女しもてらるゝに箔ゆきてゆくへ

言牛らくらしけて只由る月紅

一名もきゝて西来牡丹花もいろかくしのぼりめぐると

是まさに嵐るよ○付ふ兼朗詠野草芳菲紅錦地

然れども此山茶花はいづかへたるとれて作れる

一 枕くらの松の葉をも摘れからてきゝ紀のみかと和れ

細工糸瓜棚戸も新れ句従く○付ふ兼家家の歌八万篁

是引の糸瓜棚戸と呼ておもひ給へとられてきる

狭言と云入中細よし繰の句呼見てと云ことを云たる此

まれよあけてもいづるくるく句花ともあらし継と向れ

き此後の花を君のおのしいりつらしせと記て我

給を其にいづるあをれまきれ待繰の句は秋方と記れ

そうしくもなりてけるとて彼句詩より顛倒

せり亜津に定家卿の此句ふ寄る紅花のさかえくる

みれともかくは晴紀の猿の作る此猿丸たくふの杉歌を

のべて百首歌 大 十一 より

奥山の手まくら枝々を押分けて乏しき声の流れ分て鳴らし

奥山の手まくら枝々を啼まし聞けむ峰の上にあらん

同下紀

奥山の手まくら枝々をとりこして我伏の苗の下なるを見れ

これらの来は奥山の十八番もしかしてわかるてふ叶ひ

作る者もしかして叶ひて後のまかくの紅に乱る

寄鶯恋 三條右大臣

きよふらし花のかけりてはさ続て作る事ある例れ

眞名集

拾遺

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

第の故[illegible]

[illegible]

喩て花の[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後撰

春[illegible]

[illegible]

一ゆにくらしたるに○今年氣不無（シカラ）一のふ作地や
一そそ[illegible]　奥入
[illegible]
○八[illegible]
[illegible]
同て
我前よりそのうつりかはりとも[illegible]
一おもの[illegible]
○八[illegible]
[illegible]
一いそ[illegible]　河事計（メハカリヒヨ）　万年
○[illegible]

同じ[illegible]後く日本記よ慮（タバカル）計測（同）方使[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
後百十一
[illegible]
同十二
[illegible]
[illegible]

一 ○万葉後撰

古今集

後撰より

一 ○万葉史記樊噲傳云

一 ○万葉史記樊噲傳云

一 ○万葉後撰

古今集

後撰より

一 ○万葉史記樊噲傳云

別ニ注ス

一 ○万葉史記樊噲傳云

上獨枕ニシテ一官者臥　日本紀第六垂仁紀云時天皇枕皇
后膝而晝寢　同仁徳紀云俄而隼別皇子枕皇女膝ヲ
以臥　万葉第五上琴娘子哥云
いかにあらむ日の時にかも聲しらむ人のひさの上我まくらかむ
同第七寄日本琴歌云
ひさにふす玉の小琴のことなくはいたくここたく我恋めやも
一　[illegible]〇ある集書に蔵とも[illegible]
[illegible]蔵ハ藏流ルと云[illegible]
[illegible]玉璋蔵ヘ入て[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]枕の氣をいふ[illegible]

一　[illegible]
〇ある集[illegible]道中[illegible]
[illegible]
[illegible]出するわろへし
一　[illegible]
〇ある集書[illegible]
[illegible]万葉集前境[illegible]
[illegible]黄家永万葉ト
[illegible]
[illegible]
万丹
[illegible]

一 萩[illegible] 後撰集ニ子

[illegible]しよ[illegible]ことは[illegible]秋の[illegible]ことくは[illegible]上歌ハ

一 [illegible]とてもあへる

○[illegible]ハ尼君の病の[illegible]桐壺の巻に[illegible]

[illegible]ハ河よ夾の[illegible]出しの[illegible]何よ[illegible]源氏

[illegible]十了よ

人(ヒト)乃守(マモル)あ[illegible]子とあ[illegible]れも(サズ)[illegible]

松[illegible]彼へ[illegible]浦の[illegible]後[illegible]も

さ後の[illegible]大士[illegible]も[illegible]初の[illegible]さらず

とハ[illegible]比の[illegible]雑[illegible]

みな[illegible]の[illegible]百八[illegible]年の[illegible]ハ

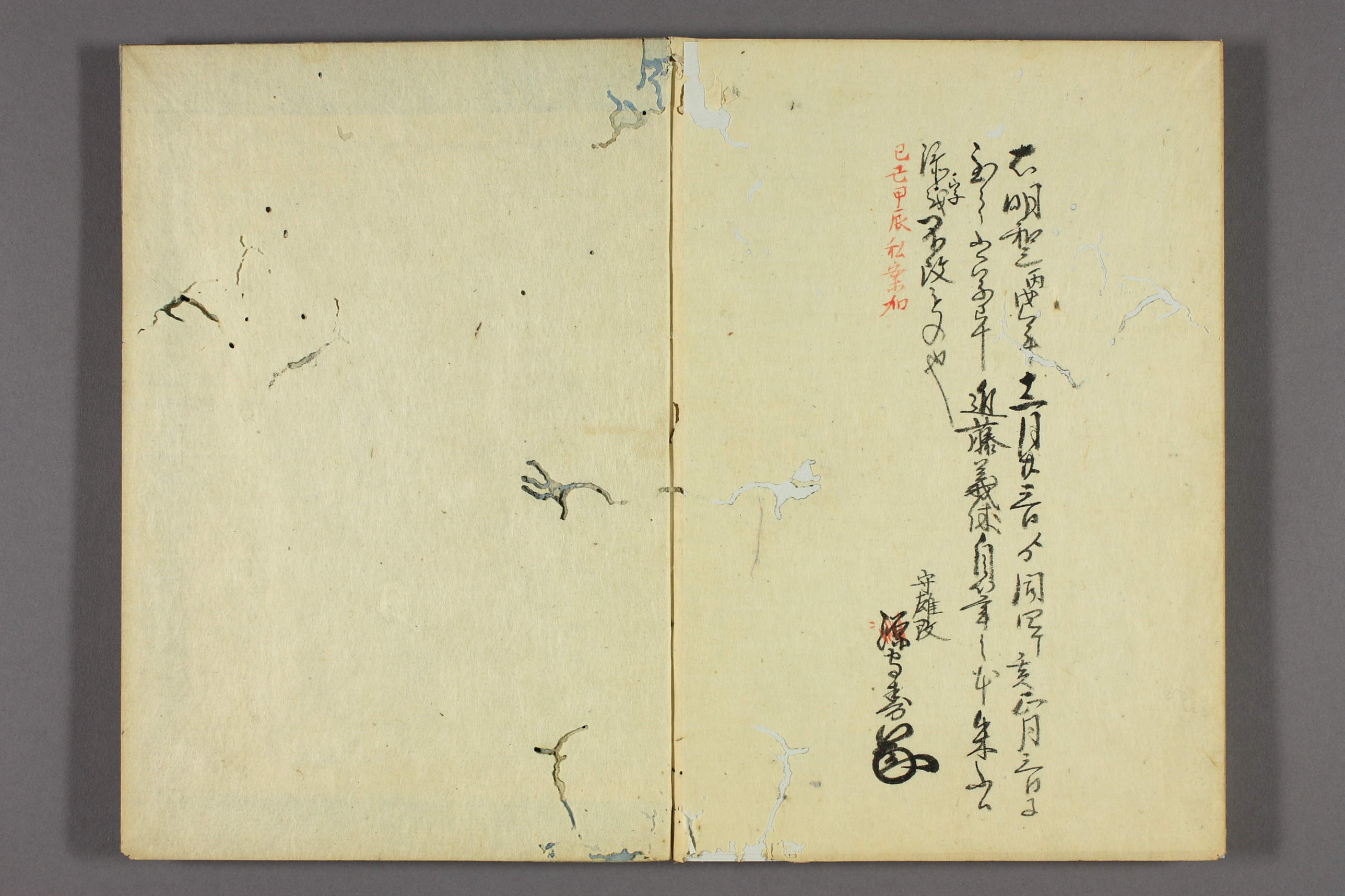
よき比[illegible]夾の[illegible]ハ叶ひても[illegible]ねらず

[illegible]も[illegible]けて

細[illegible]とう[illegible]て

○[illegible]蜻蛉日記[illegible]

あ[illegible]提の[illegible]して[illegible]へし



右明和七庚寅年十月廿五日之分同年壬辰閏十月廿日
迄藤義徳自筆しゝ中集之
保雄写之

己巳甲辰私案加

守雄改